

科目名	国文学概論Ⅰ			担当教員	木戸浦 豊和	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1JLI101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	(1) テーマ：物語の技法を学ぶ① (2) 到達目標： ①小説の言葉・表現・イメージに着目し、作品を精読できる。 ②小説の《技法》を分析し、独創的な文学表現を読み解くことができる。 ③根拠や理由を明確にして、自分の解釈や批評をまとめることができる。					
授業の概要	小説や物語を読むときには、《何が書かれているか?》(＝内容・主題)だけではなく、《どのように書かれているか?》(＝技法・表現)にも注意を払う必要がある。 この授業では、中学校や高等学校の教科書に掲載されている作品を精読し、物語の技法や表現の分析方法、解釈や批評の書き方の基礎を学ぶ。 【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	安東みさえ「星の花が降るころに」①――物語文／登場人物の特徴／語り手
第3回	安東みさえ「星の花が降るころに」②――登場人物の関係／語り手
第4回	安東みさえ「星の花が降るころに」③――物語の構成／メイン・ストーリーとサブ・ストーリー
第5回	安東みさえ「星の花が降るころに」④――物語の始まり／感覚表現／物語の場所
第6回	安東みさえ「星の花が降るころに」⑤――クライマックス／物語の終わり
第7回	安東みさえ「星の花が降るころに」⑥――物語の時間／ストーリーとプロット／空白
第8回	安東みさえ「星の花が降るころに」⑦――レトリック
第9回	安東みさえ「星の花が降るころに」⑧――象徴／解釈・批評／まとめ
第10回	芥川龍之介「羅生門」①――芥川龍之介について／物語の始まり
第11回	芥川龍之介「羅生門」②――物語の時間／登場人物と物語の場所／物語の構成と物語の類型
第12回	芥川龍之介「羅生門」③――語り手／焦点化
第13回	芥川龍之介「羅生門」④――登場人物の心理／物語の終わり
第14回	芥川龍之介「羅生門」⑤――レトリック／様々な解釈
第15回	芥川龍之介「羅生門」⑥――材源との比較／まとめ

事前学修	2時間	作品を必ず読み、疑問点等をまとめる。
事後学修	2時間	作品を再読し、自分の意見や分析・解釈を整理する。
フィードバックの方法	課題等に関し、特に優れた意見や分析・解釈を授業中に紹介する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	60%	本文に即して読み取り、根拠を示して解釈しているかどうかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価		40%	授業時の発言内容・態度、課題の提出状況・内容を評価する。
補足事項	(1) 文学の授業でもっとも大切なことは、自分で作品を読み、自分で作品を分析し、解釈することである。必ず自分で作品を読み、自分の言葉で事前課題やレポート・発表資料をまとめること。 (2) 事前課題や発表資料などについて、生成AIによって出力した文章や、ネット上の文章などを「コピペ」した場合には、失格とする。 (3) 受講生の興味・関心および理解度に応じて、内容を変更する場合がある。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する。	—	—	—	—
参考資料	授業中に紹介する。			

科目名	国文学概論Ⅱ			担当教員	木戸浦 豊和	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1JLI102
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	(1) テーマ：物語の技法を学ぶ② (2) 到達目標： ①小説の言葉・表現・イメージに着目し、作品を精読できる。 ②小説の《技法》を分析し、独創的な文学表現を読み解くことができる。 ③根拠や理由を明確にして、自分の解釈や批評をまとめることができる。					
授業の概要	小説や物語を読むときには、《何が書かれているか?》(＝内容・主題)だけではなく、《どのように書かれているか?》(＝技法・表現)にも注意を払う必要がある。 この授業では、「国文学概論Ⅰ」に引き続き、中学校や高等学校の教科書に掲載されている作品を精読し、物語の技法や表現の分析方法、解釈や批評の書き方の基礎を学ぶ。 【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	夏目漱石「夢十夜」(明治41年)①――夏目漱石について／語り手／焦点化
第3回	夏目漱石「夢十夜」(明治41年)②――物語の始まり／物語の終わり
第4回	夏目漱石「夢十夜」(明治41年)③――レトリック／曖昧性・両義性・多義性
第5回	夏目漱石「夢十夜」(明治41年)④――絵画との比較
第6回	夏目漱石「夢十夜」(明治41年)⑤――夢物語の創作
第7回	森鷗外「高瀬舟」(大正5年)①――森鷗外について／語り手／焦点化
第8回	森鷗外「高瀬舟」(大正5年)②――物語の空白
第9回	森鷗外「高瀬舟」(大正5年)③――解釈と批評
第10回	中島敦「名人伝」(昭和17年)①――中島敦について／語り手
第11回	中島敦「名人伝」(昭和17年)②――物語の空白／期待の地平
第12回	中島敦「名人伝」(昭和17年)③――解釈と批評
第13回	物語の技法の適用
第14回	授業のまとめ
第15回	期末試験

事前学修	2時間	作品を必ず読み、疑問点等をまとめる。
事後学修	2時間	作品を再読し、自分の意見や分析・解釈を整理する。
フィードバックの方法	課題等に関し、特に優れた意見や分析・解釈を授業中に紹介する。	

成績評価方法	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	定期試験は実施しない

上記以外の試験・平常点評価		60%	期末試験において、本文に即して読み取り、根拠を示して解釈しているかどうかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		40%	授業時の発言内容・態度、課題の提出状況・内容を評価する。
補足事項	(1) 文学の授業でもっとも大切なことは、自分で作品を読み、自分で作品を分析し、解釈することである。必ず自分で作品を読み、自分の言葉で事前課題やレポート・発表資料をまとめること。 (2) 事前課題や発表資料などについて、生成AIによって出力した文章や、ネット上の文章などを「コピペ」した場合には、失格とする。 (3) 受講生の興味・関心および理解度に応じて、内容を変更する場合がある。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する。	—	—	—	—
参考資料	授業中に紹介する。			